

**製品名: c-Src (リン酸化 Ser75) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04510**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	60kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SRC
別名	SRC; SRC1; Proto-oncogene tyrosine-protein kinase Src; Proto-oncogene c-Src; pp60c-src; p60-Src
遺伝子 ID	6714.0
SwissProt ID	P12931
免疫原	抗血清は、Ser75 のリン酸化部位周辺のヒト Src 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

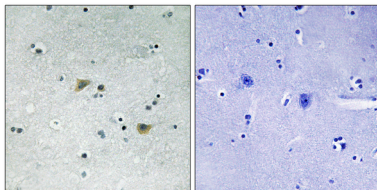
**背景**

この遺伝子は、ラウス肉腫ウイルスの v-src 遺伝子と非常に類似しています。このプロトオンコゲンは、胚発生および細胞増殖の調節に関与している可能性があります。この遺伝子によってコードされるタンパク質はチロシンタンパク質キナーゼであり、その活性は c-SRC キナーゼによるリン酸化によって阻害されます。この遺伝子の変異は、大腸癌の悪性化に関与している可能性があります。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする 2 つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。 ,PTM: c-Src キナーゼ (CSK) によって Tyr-530 がリン酸化されます。リン酸化型は pp60c-src と呼ばれます。リン酸化末端は SH2 ドメインと相互作用し、キナーゼ活性を抑制します。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンキナーゼファミリー。SRC サブファミリー。 ,類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。 ,類似性: 1 つの SH2 ドメインを含みます。 ,類似性: 1 つの SH3 ドメインを含みます。 ,サブユニット: SH3 ドメインを介して DDEF1/ASAP1 と相互作用します。CCPG1 と相互作用します (類似性による)。CDCP1、PELP1、TGFB111、および TOM1L2 と相互作用します。MUC1 の細胞質ドメインと相互作用し、それをリン酸化して MUC1 と  $\beta$ -カテニンの結合を増加させます。SH3 ドメインを介して RALGPS1 と相互作用します。SH3 ドメインを介して HEV ORF3 タンパク質と相互作用します。 ,

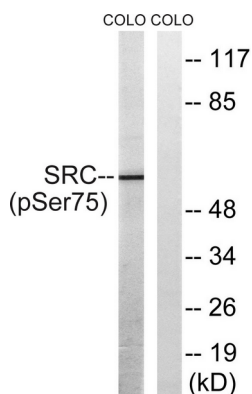
## 研究分野

ErbB\_HER;エンドサイトーシス;VEGF;接着斑;Adherens\_Junction;Adherens\_Junction;ギャップ結合;GnRH;ヘリコバクター ピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達;

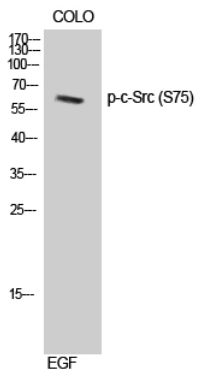
## 画像データ



Src (リン酸化 Ser75) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



COLO205 細胞ライセートを EGF 200 ng/ml 30 分処理し、Src (リン酸化 Ser75) 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 希釈の Phospho-c-Src (S75) ポリクローナル抗体を用いた COLO 細胞のウェスタンブロット解析